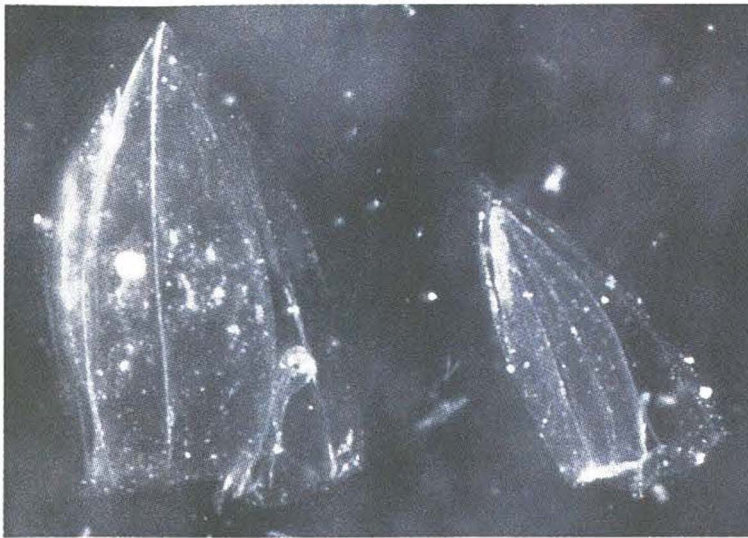


フタツクラゲモドキ



△
ばらばらになっ
たフタツクラゲ
モドキ

久保田 信

45



フタツクラゲモドキは上下
合わせても、大きいもので長
さ2センチにも満たない小さなヒ

ドロクラゲだ。紀南地方など
の沖合にも普通に見られる
が、外洋性なので飼育が難し
く、生活史はよく分かってい
ない。
名前の通りだと、上下二つ
が合体して並んでいるのが本
当だが、プランクトンネット
で採取すると、すぐ二つはば
らばらになる。

ット全体を泳鐘(えいしょう)
と言いい、堅い寒天質の傘であ
る。その中の空洞に入った海
水を勢いよく噴射しては入れ
て、素早くダッシュするよう
に泳ぐ。ロケットに縦方向に
走る複数の筋は放射水管で、
4本ある。これは体全体に栄
養を補給するパイプのような
ものだ。

フタツクラゲモドキのどち
らの個体も画像の右隅が少し
膨らんでいる。その先に油の
詰まった部分があり、体囊
(たいのう)という。左の大
きい個体でははっきりしてい
るが、右の小さな個体では不
明瞭だ。

本体は分業化した個虫が多
く集まってできている。上の
泳鐘には餌を食べる個虫がい
ないため、ばらばらになると
やがては朽ち果ててしまうだ
ろう。有性生殖は、母体のク
ラゲから小さなロケット型の
特殊な成熟クラゲ(ユードキ
シッド)を遊離させる。クラ
ゲからクラゲを発射するわけ
で面白い。

(京都大学准教授)